

# 平成 24 年度「教職課程担当教員養成プログラム」

## 教育・研究活動報告

杉田 浩 崇  
(広島大学)

広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（博士課程後期）は、平成 19 年 9 月から平成 22 年 3 月にかけて、「Ed.D 型大学院プログラムの開発と実践～教職課程担当教員の組織的養成～」(平成 19 年度文部科学省大学院教育改革支援プログラム)に取り組んだ。同プログラムでは、①確かな研究力に加え、大学教育において実践的な指導力を発揮できる人材、②高等教育を含む教育臨床に的確に対応できる人材、の育成が目指された。同プログラムは、将来、教職課程を担当する大学教員、すなわち「先生の先生」を組織的に養成しようとするものであり、これまで研究者養成に特化してきた大学院教育のあり方を見直すものでもあった。3 年間にわたる活動を通して、4 名の博士課程後期院生が修了した。

平成 22 年 3 月に同プログラムが終了した後、これまでの 3 年間にわたる活動を更に発展させるかたちで、「教職課程担当教員養成プログラム」(以下、「教職 P」と略記)が展開されることとなった。新たな名称とともに開始された「教職 P」は、現在 3 年目を迎えている。平成 24 年度の受講生は 8 名である。博士課程後期 1 年次生は前後期を通じて、2 つの授業(「教員養成学講究」と「大学教授学講究」)を履修し、各大学で開講されている教職に関する科目のシラバスを分析するとともに、教員養成制度の歴史や特徴、大学での教授法などを学んだ。博士課程後期 2 年次生は学内(広島大学)で前後期それぞれ 1 回ずつ、計 2 回の教壇実習に取り組み、博士課程後期 3 年次生は学内あるいは学外(他大学)において教壇実習に取り組みした。それらの概要は以下のとおりである。

表 平成 24 年度 学内外における教壇実習

実施時期	実施先	実施科目	実習生(学年)
7 月 17 日(火)	広島大学	教職入門	尾場 友和(D2)
7 月 19 日(木)	広島大学	教育行政学	黒木 貴人(D2)
7 月 24 日(火)	別府大学	生徒指導論	尾川 満宏(D3)
11 月 12 日(月)	広島大学	教育と社会・制度	黒木 貴人(D2)
1 月 21 日(月)	広島大学	特別活動指導法	尾場 友和(D2)
1 月 22 日(火)	広島大学	教育経営学	森下 真実(D3)

教壇実習の前後には、指導案を検討する事前検討会と実際の授業について反省を行う事後検討会が開かれる。受講生は教育指導を担当する教員（TA 指導教員）の助言や他の受講生のコメントをもとに、授業を構想し、反省する。研究上の指導教員だけでなく、自らの専門とは異なる教員の教育観や他の院生の意見をふまえることで、多角的な授業改善が促されるのである。このような手厚い指導体制と「仲間」との切磋琢磨が、実質的な学びの土壌をかたちづけているのだろう。教壇実習と事前・事後検討会を含めた「プラクティカム」の組織的な実施・運営は、教職 P の最大の特徴だと言える。

博士課程後期 3 年次生は最後に、教職 P の総仕上げとして、「教職教育ポートフォリオ」を作成した。これまでプログラムを履修してきたなかで学んだことを振り返り、自らの「授業哲学」としてまとめるに至ったのである。彼らには「修了証明書」が手渡されることになり、その結果、平成 24 年度は第三期生として 2 名の修了生が誕生することとなった。

また、教職 P では上記のプログラムと並行して、受講生である博士課程後期院生が中心となり、これからの大学教員に求められる力について議論を交わしてきた。平成 23 年度は中国四国教育学会第 63 回大会において、ラウンドテーブル「これからの大学教員養成の話をしよう」を企画した。その成果を継続・発展させるかたちで、平成 24 年度は、2013 年 3 月 14 日（木）・15 日（金）に京都大学で開催された、第 19 回大学教育研究フォーラムにおいて、参加者企画セッション「博士課程後期学生がすすめる〈FD〉」を企画した。本報告書に収められている論文は、その成果の一部である。ご一読いただければ幸いである。

成果報告にむけて、受講生は博士論文の計画・執筆の傍ら、1 年間にわたって自ら課題を立て、議論し、推敲を重ねてきた。こうした受講生の主体的な取組が背景にあるからこそ、教職 P の充実した展開がなされているといっても過言ではない。セッション当日は、指定討論者の田口真奈氏（京都大学高等教育研究開発推進センター）および樋口裕介氏（福岡教育大学教育学部）から、忌憚のないご意見をいただき、活発な議論が重ねられた。そこで得られた新たな視座や論点は、受講生の今後の授業改善や議論に活かされ、次年度以降の成果へと結実することだろう。

教職 P は、様々な方の支援によって成り立っている。末筆ながら、運営に携わってくださった教職員ならびに受講者である院生、学外プラクティカムを受け入れていただいた別府大学の佐藤敬子先生や牧貴愛先生をはじめとする教職課程の先生方、魅力ある授業を公開していただいた安田女子大学の八木秀文先生ならびに鳥取短期大学の白石崇人先生、現職教員研修の具体的な取組を教えていただいた島根大学の塩津英樹先生、大学教育研究フォーラムにおいて指定討論者を引き受けていただいた京都大学の田口真奈先生ならびに福岡教育大学の樋口裕介先生、そのほか多くの方々に、心より感謝申し上げたい。たしかに教職 P は全学で展開されるほど大きな取組ではない。だが、着実に成果を積み重ね、革新的な大学院教育のひとつのモデルになりつつあるように思われる。そうした教職 P の取組が今後も、継続・発展していくことを祈念する。